

# News Release

2023年5月17日

報道資料

## パイオニアのGXソリューションと国際航業の「エネがえるEV・V2H」が連携 ～移動データを基にしたシミュレーションで、EVやV2Hの導入効果を高精度に算出～

パイオニア株式会社は、独自のクラウドプラットフォーム「Piomatix for Green (パイオマティクス・フォー・グリーン)」を活用したGXソリューションの要素技術「EV消費電力推定技術」を、国際航業株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長:土方 聡、以下「国際航業」)が提供するサービス「エネがえるEV・V2H」と連携させることで、同サービスにおけるEVやV2H導入効果シミュレーションのさらなる高精度化を実現します。

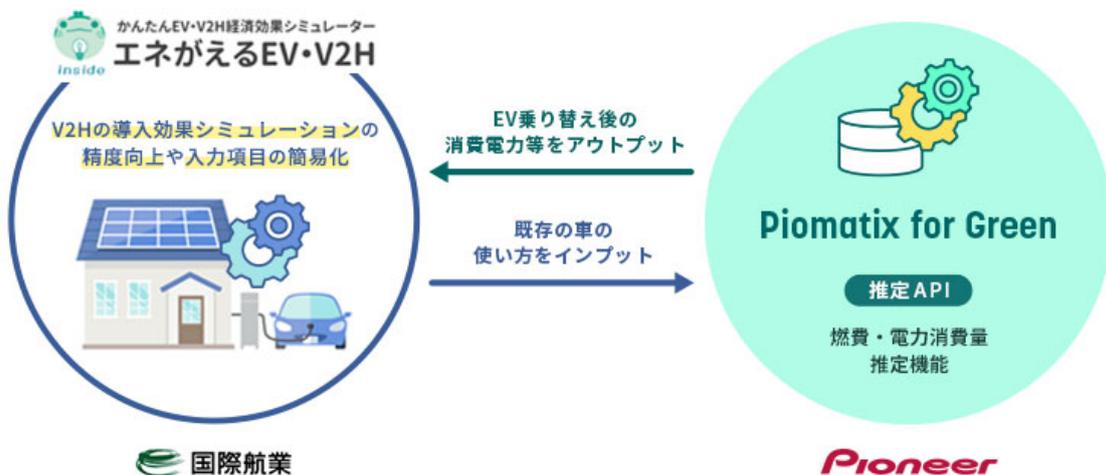
2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、再生可能エネルギーの利用拡大が促進されており、その一つである太陽光発電の普及を目的に、東京都や川崎市をはじめ、新築住宅への太陽光パネルの設置義務化などの施策が進められています。効率的に太陽光発電を運用するためには発電した電力を貯めておく蓄電池が必要ですが、そのコストの高さや設置場所の制約が普及の妨げとなっています。そこで、蓄電池の代わりにEVを利用する「V2H※技術」への注目が高まっています。

※V2H: ビークルトゥホーム(Vehicle to Home)の略称。EVやPHV(プラグインハイブリッド車)のバッテリーに蓄えられている電力を住宅の分電盤に接続し、家庭内の照明や家電製品などを動かす電力として使用するシステムの総称。

国際航業は、太陽光発電システムや定置型蓄電システム、EV、V2Hを導入した際の経済効果を簡単に診断できるシミュレーションサービス「エネがえるEV・V2H(β版)」を提供しており、本年初夏に正式版をリリースする予定です。また、パイオニアは、勾配などの道路データや毎秒の交通量(渋滞など)、ドライバーの走行実績情報(走行速度や加速度など)まで考慮する高度なルート最適化技術と、特許取得済みのエネルギー効率推定技術(燃費/電力消費率)を組み合わせ、走行ルートにおけるEVの消費電力量を高精度に算出する「EV消費電力推定技術」を保有しています。

今回、「エネがえるEV・V2H」正式版とパイオニアの「EV消費電力推定技術」を連携させることにより、EVの出庫・帰庫のタイミング(駐車時間帯)や帰庫時のEV充電状態(SoC: State of Charge)、出庫時に必要なSoCの高精度な予測が可能になります。予測・算出したデータをAPI連携するため、シミュレーション精度の向上と入力作業の効率化が実現します。

両社は、シミュレーション精度を向上した「エネがえるEV・V2H」正式版を太陽光発電システムのメーカーや施工販売店、設置事業者のほか、EVを扱うカーディーラーやリース会社に提供することで、国内におけるV2Hの利用や太陽光発電の普及促進とともに、EVへの切り替えによる脱炭素化に向けた取り組みを推進していきます。



パイオニアのGX活動について :

<https://jpn.pioneer/ja/pioneergreenmobilityprogram/?ad=pr>

国際航業の「エネがえるEV・V2H」について :

<http://evv2h.enegeru.com/>